

## 会 議 録（要録）

|     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
| 会議名 | 第3回福山市長期総合計画策定審議会                 |
| 日 時 | 2006年（平成18年）8月3日（木） 15時00分～17時20分 |
| 場 所 | 福山市役所6階60会議室                      |
| 出席者 | 別紙「出席者名簿」のとおり                     |
| 欠席者 | 相川委員，常盤委員，藤本委員，松本委員，三上委員          |

| 発 言 者 | 議 題 ・ 発言内容  |
|-------|---|
| ○事務局  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3回福山市長期総合計画審議会を開会させていただきたい。</li> <li>・ 本日は相川委員，常盤委員，藤本委員，松本委員，三上委員から欠席の連絡をいただいている。</li> </ul>   |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日は3回目の審議会であり，次回に答申案の審議という運びになるため，どうかよろしくお願ひしたい。</li> <li>・ 本日も公開で審議会を進めたい。また，発言の際にはマイクのボタンを押し，はじめに名前を伝えていただきたい。</li> <li>・ 基本構想案の前半と後半に分け，前回審議会では前半を集中的に審議した。本日は，前回審議会で提示された意見と対応について，事務局と会長により整理したため説明させていただきたい。そのうえで，基本構想案の後半部分を行いたい。さらにその後，前回積み残しになっていた懸案事項について議論したい。</li> </ul>             |
| ○事務局  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3回福山市長期総合計画審議会資料」について説明。</li> </ul>  |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回審議会で提示された意見を事務局より説明いただいた資料のように整理したが，これについて質問や意見をいただきたい。特に発言された方の意見をいただきたい。</li> <li>・ よろしいか。ひとまず，資料のとおり整理させていただいたということで，即座には意見はないということで，次に進ませていただく。</li> <li>・ それでは，基本構想案の後半部分（15ページ以降）について質問，意見をいただきたい。</li> <li>・ それでは，事前に意見をいただいた委員の意見を先に紹介するため，まず，伊藤委員から2点の修正意見，資料について説明お願ひしたい。</li> </ul> |
| ○伊藤委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず，17ページの3つ目の基本目標「多様に学び・文化をはぐくむま</li> </ul>  |

|       |   |
|-------|---|
|       | <p>ち」について、「多様に学び」という表現ではあいまいであるため、「生き生きと学び・文化をはぐくむまち」という表現に修正をお願いしたい。学校教育においては多様な学びは、塾へ行くぐらいしかない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次に23ページの施策大綱の上から3つ目について、「生きる力と豊かな人間性をはぐくむ生涯学習の実現」という表現を2つに区分をお願いしたい。学校教育については「しっかりと学び、豊かな心をはぐくむ学校教育の充実指導に努める」と、それからもう1つは「楽しく集い学びの輪を広げる生涯学習の推進」というように2つに分ける。「個性あふれる地域文化の継承と創造」と「健やかな心と体を培う生涯スポーツ活動の推進」はそのままよい。</li> </ul> |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「多様に学び」というのは、内容が多様ではなく、学ぶ手段が多様であることを言っているのか。</li> </ul>  |
| ○伊藤委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>そのとおりである。</li> <li>大綱において社会教育と学校教育の2つに区分していただきたい。</li> </ul>   |
| ○細木委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想の中に学校教育の記述があまりなく、社会教育に関する記述が多いように思う。</li> </ul>  |
| ○事務局  | <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての人が生涯を通じていつでもどこでも学ぶことができる社会、つまり学校教育を含めてさまざまな場面で学ぶことができる社会を目指すという趣旨で「多様に学び」ということにしている。</li> </ul>  |
| ○安川委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局の説明を聞けば、やはりいつでもどこでも多様な形で学ぶことができるという社会というのは賛成であるため、どこかに残しておきたい。</li> </ul>   |
| ○丸山委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標では「多様に学び」という表現を残し、後の方では「学校教育の充実と生涯学習の推進」という表現にすればよいのではないか。</li> <li>施策の大綱に「生き生きと暮らせる健康づくりの推進」という表現があるため基本目標は「生き生きと」ではなく、「多様に学び」の方がよいと思う。</li> </ul>  |
| ○永久委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>人づくりは本当に大事なことである。学校教育と生涯学習はやはりはっきりと分けて列挙した方がよいと思う。</li> <li>歴史、文化の伝承、新たな発展という意味でも、生涯にわたっての学習という記載を残し、また、学校教育については人づくり面で重要であるためはっきり記載した方がよいと思う。</li> </ul>  |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「多様に学び」というようなところが残った方がいいという意見である。</li> </ul>   |
| ○伊藤委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>大綱では学校教育と社会教育をぜひ分けて議論すべきあるということである。</li> </ul>   |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各委員の意見の大勢は、基本目標では「多様に学び」と記載し、その後学校教育と生涯学習を区分するという方法がよいというように整</li> </ul>   |

|       |   |
|-------|---|
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>理できる。</li> <li>次に相川委員は本日欠席であるため、事務局より相川委員の意見を説明いただきたい。</li> </ul>  |
| ○事務局  | <ul style="list-style-type: none"> <li>本日欠席の相川委員からあらかじめ事務局へ基本構想の修正等の意見をいただいている。</li> <li>まず、将来都市像については原案でよいという意見である。</li> <li>次に、基本方針について2点ある。1点目は、16ページ6行目の「自治会・町内会を初めとした住民組織」という表現について、「公民館を地域自治の拠点」に修正してはどうかという意見である。</li> <li>2点目は、同じ16ページの「人づくりを進め、新たな文化や産業を創造する」という部分であり、福山に住みたくなるように学校教育に特色を持たせることについて記載してはどうかという意見である。例えば、学力・体力向上、食育などについて記載してはどうかと指摘されている。</li> <li>次に、施策の大綱についても2点意見をいただいている。1点目は20ページの②「子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち」の部分であり、子育て支援策として企業内保育の実現について記載してはどうかという意見であった。</li> <li>2点目は、②「活力ある高齢社会」について「活力あふれ豊かな高齢社会」に修正してはどうかという意見である。こうした表現にすることで、リバースモーゲージの導入につなげることができると指摘されている。</li> </ul> |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会・町内会についての修正はどのように理解すべきか。</li> </ul>   |
| ○事務局  | <ul style="list-style-type: none"> <li>相川委員は、おそらく拠点について公民館という場所に着目した方がよいと判断されたと考えられる。</li> </ul>  |
| ○岡野委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会・町内会を初めとした住民組織の動詞はどれに該当するのか。自立を図ることが動詞になるのか。少し理解しにくい表現である。</li> </ul>   |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章が4、5行にわたっているため理解が難しい。</li> </ul>   |
| ○岡野委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の課題は」が主語になっている。</li> <li>地域の課題が主体的に解決できるように、自治会・町内会を初めとした住民組織の自立を図りますというように読めばいいのか。</li> </ul>  |
| ○永久委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の課題は」が主語であるのなら、自治会や町内会を初めとした住民組織と、住民自治の拠点となる行政組織への2つにつながる。つまり、住民組織と行政組織への分権を図ることが文章の意味ではないか。</li> </ul>   |
| ○細木委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>住民組織、拠点となる行政組織の2つにかかっているのではないか。</li> </ul>   |
| ○安川委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局に説明いただいた方がよい。</li> </ul>  |
| ○事務局  | <ul style="list-style-type: none"> <li>補足説明を行う。福山市では協働のまちづくりに取り組んでいるとこ</li> </ul>   |

|        |  |
|--------|--|
|        | <p>であるが、協働の相手方はまず市民であり、それから自治会や町内会、あるいはNPOといった組織であると考えている。自治会や町内会の活動拠点である公民館も重要であるがあくまで場所・施設であり、まちづくりのための分権を行う対象ではない。やはり市民の組織である自治会や町内会が分権の対象となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政組織への分権については、行政内での分権、庁内分権、支所などへの分権を意味する、</li> </ul>  |
| ○安川委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>分権というと何か権限がありそれを移譲するというように読みとれるが、住民組織への分権とはどういう意味か。</li> <li>庁内の行政組織への分権というが、一方で窓口が多くあり統一的な対応がなされないという問題がある。分権という言葉が少し引っかかるように思う。</li> </ul>  |
| ○事務局   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地方分権の時代の中でいわゆる団体自治から住民自治、国から地方へ財源や権限の移譲、それから真の住民自治の実現という考え方が重要であり、行政から住民への分権（権限等の移譲）が現在課題であると考えられている。</li> <li>したがって、権限や財源の移譲の受け皿が重要となる。今年度については学区のまちづくり推進委員会を全学区で立ち上げていただき、これを受け皿にしていきたいと思っている。</li> <li>また、支所はその地域の住民の活動拠点となる場所であり、支所を中心に地域でできることは地域で行うために、支所へ分権を進めていく必要があると考えている。</li> </ul>                                 |
| ○藤井副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章が長過ぎるため、わかりにくくなる。私も学生たちにはできるだけ区切りながら文章を書くように指導している。</li> <li>具体的には、16ページの「事業遂行能力を高めることが必要です」と、ここで区切り、そして「地域の課題は」と続ければよい。このように区切った方がわかりやすくなる。</li> <li>また、行政組織へ分権するという表現は、安川委員が言われたように、少しおかしいのではないか。この部分の文章表現は事務局の方で整理し直してもらえればよい。</li> <li>この部分で時間をかけるべきではない。参加している人の意見を後回しにするのはよくない。参加している人にできるだけ意見を言うよう進行すべきである。</li> </ul> |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>それではこの16ページの文章を事務局でもう少し整理していただきたい。</li> <li>福山に住みたくなるように学校教育に特色を持たせることについてはどうか。</li> </ul>  |
| ○伊藤委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>大綱ではなく、施策で議論する内容である。</li> </ul>   |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>それでは、学校教育に特色を持たせることについては議論を終了することとし、相川意見について事務局で整理をお願いしたい。</li> <li>1時間を過ぎてしまったため、出席の委員から意見を伺いたい。</li> </ul>  |

|        |   |
|--------|---|
| ○丸山委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>16 ページに「政令指定都市と遜色ない」という表現があるが、ここでこうした表現を殊さら書く必要はないのではないか。</li> </ul>   |
| ○事務局   | <ul style="list-style-type: none"> <li>福山市は合併により 47 万の都市になったことと、広島県からの権限移譲などを受けていることにより、中四国地方の拠点都市にふさわしいような政令指定都市に匹敵する権限と財源を持つという都市を目指したいと考えており、そのため、こうした表現にしている。</li> <li>10 ページの下から 3 行目あたりから、今言った点を記載している。</li> </ul>  |
| ○安川委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「政令指定都市」と言う場合、市民は即座にイメージが浮かぶのか。「政令指定都市と遜色ない」と言われても一体何のことを言っているのかわからないのではないか。</li> </ul>  |
| ○細木委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば児童相談所を持たなければいけないなどの点で中核市とは異なる。ただし、「遜色ない」という表現はどうか。</li> </ul>   |
| ○安川委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>そうであれば、「政令指定都市」を説明するために注をつけるなどの工夫をした方がよいと思う。</li> </ul>  |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>政令指定都市とは言っておらず、拠点都市ということを行っているのか。「政令指定都市と遜色ない」というが、本当に遜色はないのか。</li> </ul>  |
| ○事務局   | <ul style="list-style-type: none"> <li>中四国地方における政令指定都市は、周知のとおり広島市のみである。また、60 数万人の岡山市が政令指定都市を目指し合併を進めているが、岡山市が政令指定都市になったとしても中四国では政令指定都市は 2 市にすぎない。</li> <li>福山市は 50 万都市を目指すという中で、合併を推進し 50 万弱の人口規模となっている。これまで 50 万人規模の都市が有する都市機能（利便性、都市基盤整備等）を目指してまちづくりを行ってきた。</li> <li>国は政令指定都市の要件を人口 70 万人に緩和しており、そうした中で岡山市が具体的に移行を目指している。福山市では、現在合併は一段落を迎えており、70 万人はまだ当面難しいと思われる。このため、広島市のような機能を持つ政令指定都市に即座に移行するのは難しいと考えられる。</li> <li>ただし、市民が将来、福山市が更なる発展を目指していくということになれば、道州制移行についても 10 年間の中では起こり得る。近い将来そういった議論が起こり得るという中で、都市としての格の向上というか政令指定都市を目指すという方向性があってよいと思い、このような記述にしている。</li> </ul> |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>今の回答でよいか。</li> </ul>   |
| ○丸山委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>了解した。</li> </ul>   |
| ○藤井副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「中四国」という言葉を使っているが、「中国、四国」ではいけないのか。それとも「中四国」を使うのであれば「中・四国」の方が正しい。正式に役所で書かれる文書として「中四国」というように略されていることが気になる。後で事務局の方で整理をお願いしたい。</li> </ul>  |

|        |  |
|--------|--|
| ○事務局   | <ul style="list-style-type: none"> <li>23 ページでは、基本理念から将来都市像へ、さらに基本方針、基本目的へとつながっているが、基本方針は①から④までであるにもかかわらず次の基本目標では5項目になっているのはおかしくないか。</li> <li>具体的にいえば、基本方針における位置付けが明確でない基本目標として、保健・福祉・医療があげられる。保健・福祉・医療に対応する基本方針があると言うのであればどの基本方針か教えていただきたい。</li> </ul>  |
| ○事務局   | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標と施策の大綱は連動しているため、23 ページでは四角で囲んでいる。一方、基本方針については基本目標と少しレベルが異なり、すべての基本目標、すべての施策の大綱を展開していく上での基本的な視点として位置付けられるものである。</li> </ul>   |
| ○藤井副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本方針はすべての基本目標に展開すると考えることもできるかもしれないが、例えば①の協働のまちづくりは、基本目標の中では協働・行革に該当すると理解できるのであり、保健・福祉・医療がどの基本方針に対応するのか明確にわからないことについては違和感はないか。</li> </ul>  |
| ○事務局   | <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての施策の展開に当たっての共通の考え方ということであるため、保健・福祉・医療でいえば、地域での福祉を高めていくためには、協働の視点が必要であり、安心・安全についても、地域協働で子どもを見守ることが必要となる。</li> </ul>   |
| ○藤井副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>細木委員、事務局の言うような理解でいいか。保健や医療も協働のまちづくりにつながるのか。</li> </ul>  |
| ○細木委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>協働のまちづくりの基本方針では、「更に充実した取り組みが求められる少子・高齢社会」という言葉は一応入っているが、これだけなのかと思う。</li> <li>基本的に保健・福祉・医療は、福山市における1つの大きな事業として中心になるべきものであると思っている。</li> </ul>   |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>確かに基本方針がすべての基本目標に展開するという考え方は少し弱いという気がする。</li> </ul>   |
| ○藤井副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1つの提案として、例えば基本方針の①について、「『協働のまちづくり』を実践し地域力を高める」というだけにせず、もう少し文章表現を考えることが求められる。</li> <li>本当は基本方針としてもう1本入れてほしいというのが要望である。つまり、これからの10年間の長期計画の中に保健・福祉・医療はどのような基本方針に位置付けられるのかと言われたときには納得ができないと思う。</li> <li>今さら基本方針を1つ増やすのは大きな変更になると言われれば、①の協働のまちづくりに関わる基本方針の表現を変えるなどの方法で検討いただきたい。</li> </ul> |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>藤井副会長が言うように2つ目の基本目標へつながる基本方針が明</li> </ul>   |

|               |  |
|---------------|--|
| <p>○岡野委員</p>  | <p>確でない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働のまちづくりという基本方針はすべての基本目標につながる。</li> <li>・ この2つ目の基本目標と基本方針の関係の明確化について、事務局の方で整理をお願いしたい。</li> </ul> <p>基本目標「産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまちづくり」へつながる基本方針は、「『人づくり』を進め、新たな文化や産業を創造する」に加えて「『福山』を積極的・継続的に発信し、都市ブランド力を高める」も該当するというように、基本方針と基本目標のつながりが読みとりにくい。このため、会長が言われたような整理をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来像を記載しているページをみると「産業」ではなく「活力」という言葉が記載されており、また、将来都市像では「にぎわい」や「躍動」という言葉がある。もちろん、都市が躍動しようとするれば当然「産業」の力が必要となるが、大きな捉え方という意味では「産業」ではなく「活力」という言葉が適切であり、こうしたことから、4つ目の基本目標においても「産業」よりも「活力」という言葉の方が適切である。提案として審議をお願いしたい。</li> </ul> |
| <p>○門田委員</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本目標は市政の7つのキーワードとして理解できる。教育、環境、福祉、活力、安全、改革、協働である。これらのキーワードも念頭において、基本目標と基本方針の関係を整理すればよい。</li> </ul>  |
| <p>○井上会長</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本方針と基本目標の関係について事務局の方で整理していただきたい。</li> </ul>  |
| <p>○安川委員</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「『人づくり』を進め、新たな文化や産業を創造する」という基本方針についてであるが、文化と同時に知性を育てることも重要であり、知的な創造力を育てるという点も基本目標に入れておくべきである。たとえば、高い文化と知性をはぐくみ、あるいは高い文化と創造力を育てるまち、活躍できるまちなどというような内容をもう少し強調して入れていただきたい。</li> </ul>   |
| <p>○藤井副会長</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 23 ページの施策の大綱の2段目一番最後の行、「だれもが安心して生活できる社会保障制度の適切な運営」についてであるが、どのような意図で社会保障制度という言葉を使ったのか。前の方の文章に社会保障制度という言葉が出てこなかったように思うが。</li> </ul>   |
| <p>○事務局</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会保障制度に関する具体の施策は、国民年金制度の啓発や生活保護制度に関する施策が該当する。</li> </ul>  |
| <p>○永久委員</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 23 ページの基本方針「『福山』を積極的・継続的に発信し、都市ブランド力を高める」は、基本目標「産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち」につながると考えればいいのか。どのように福山を発信できるのかが明確でない。もう少し具体的なイメージができるような言葉を入れることにより、今後10年間のことがイメージできるような姿を明確にする方がよい。</li> </ul>  |

|       |  |
|-------|--|
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブランド力を高めるといのは産業面だけでなく、文化面もある。</li> </ul>  |
| ○永久委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば尾道であれば観光で都市を売っており、広島の場合は片仮名のヒロシマにより平和をアピールしている。</li> <li>・ 福山も今後 10 年間を見据えて何かイメージできるような言葉が必要である。</li> </ul>  |
| ○事務局  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民アンケート調査によれば、「ばらのまち」としてのイメージは着実に定着してきたが、外部に向けては必ずしも十分に発信できていない。</li> <li>・ また、福山の場所は尾道と倉敷の間と言えはわかってもらえるというように福山市の知名度は高いとは言えないため、これからどのようにして知名度を上げていくかが課題である。</li> <li>・ こうした中で、都市ブランドを創出して、それをいかに発信していくかということが、福山の名前を広げていくことになると考えられる。</li> <li>・ 福山は、合併により歴史資源も増えた。特に鞆の浦、福山城、廉塾、本陣など多種多様な資源がある。これらをどのように磨き光らせ発信していくかが今後の大きな課題であり、そうした思いで 16 ページにおいて、都市間競争の中での都市ブランドを高めることについて記述している。</li> <li>・ 都市ブランドは、個別商品から都市総体としてのイメージなど複合的なものから成っていると思う。都市ブランド力を高めるための具体的な取組は基本計画において整理したいと考える。</li> </ul> |
| ○山口委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福山においては「鉄」が重要である。</li> </ul>  |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブランドとしての「鉄」ということか。</li> </ul>   |
| ○安川委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調和のとれた産業計画が重要である。福山市の産業は鉄が中心であるが、例えば農業もある。</li> <li>・ また、福山市には、鞆の浦などの自然資源、景色、廉塾を初めとする歴史的な遺産などがある</li> <li>・ 以上の点をふまえ、鉄も含め、今後 10 年間に都市をどのような構造にしていきたいかを考えることが重要である。人口が政令指定都市並になるだけでなく、具体的なイメージが求められる。</li> <li>・ また、知的な資源をどのように育て生かしていくかということも含め、産業全体の見通しをどうするのかという点について考える必要もあるのではないか。</li> </ul>   |
| ○山口委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鞆も貴重な資源であるが、山野峡の滝も貴重である。尾道や倉敷では滝はないという意味でも貴重である。また、山野峡は森林浴という意味でも貴重な資源である。</li> </ul>   |
| ○安川委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山野の自然の問題は、一方で深刻ではあるが、他方で財産になり得る資源であると感じる。</li> </ul>  |
| ○細木委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細かい意見が出されているが、この審議会で決めることは基本構想についてであり、山野などの資源については基本計画の実施計画におい</li> </ul>   |

|       |  |
|-------|--|
|       | <p>て取組を具体化すべきものである。</p>  |
| ○永久委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブランド力を高めるためには、観光や伝統、歴史などの視点もあるが、やはり産業も重要である。オンリーワンやナンバーワン、地場産業についても考慮すべきである。</li> </ul>   |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福山市は製造業中心のまちだと思う。極端に言えば「鉄」が中心である。このため、そうした製造業が活動しにくいまちに計画するのは問題であると思う。</li> <li>・ しかし、福山市は、産業に対して文化は弱い。このため文化について強化していくことについては基本構想案に含まれているため、いいのではないかと思う。</li> <li>・ 具体的な施策は基本計画において示される。</li> </ul>  |
| ○門田委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先に議論があった 16 ページにおける分権の記述は整理が必要である。</li> <li>・ 協働のまちづくりにおいては、地域の課題は地域で解決することが基本であり、地域自らが解決できない場合に行政が支援することとなる。ここで地域の課題をどこで解決すべきかということとなるが、これはやはり住民組織といえれば自治会・町内会であろうと思う。</li> <li>・ 自治会はあくまでも行政側と協働しながら地域の課題を解決していくものであり、行政組織への分権という表現は誤解を生じる。このため、整理をお願いしたい。</li> </ul> |
| ○伊藤委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の整理事項についてである「人口減少時代の中」を「都市間競争時代」にするという提案について審議する必要があるのではないか。</li> </ul>   |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今からその審議を行う。</li> </ul>  |
| ○伊藤委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の議事録についてであるが、小学校で給食が全然ないという表現が記載されている。福山の小学校 78 校、幼稚園 24 園のすべてで給食が実施されている。したがって、議事録は間違いである。</li> <li>・ また、中学校は 36 校あり、8 校で完全給食を行い、28 校は弁当持参となっている。ただし、牛乳を学校から提供している。給食については議事録に間違いがあるため、訂正をお願いしたい。</li> </ul>   |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議事録の間違いについては訂正をお願いしたい。</li> <li>・ 前回から継続審議である 10 ページの基本的課題の文章と、13 ページの将来都市像について審議したい。</li> </ul>  |
| ○山口委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今の時代を一言で言えば、「多文化共生社会」である。</li> </ul>  |
| ○安川委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、福山へ来て働く外国人の方々が増えていくことから、10 年先取りして考えるならば、多文化共生時代を枕ことばとすることもいいのではないかという気がしてきた。</li> <li>・ 人口減少時代の中というのは、むしろ積極的に言えば、たくさん地球規模で多様な方がここへ来て働いたり暮らしたり、あるいは一時的に観光に来たりということも含めて言うと、「多文化共生時代の中、住んでみたい、行ってみたいと思えるまち」などという表現がいいので</li> </ul>                                      |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>はないかという気がしている。広島で起こった幼い子どもの事件を含めて考えると、多文化共生は重要な深刻な問題になる可能性を持っている。</p>  |
| ○岡野委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 確かに基本構想を策定するに当たって、10年先の世の中がどのようなになっているかということ念頭におくことも重要ではあるが、社会現象というようなものをあえて冠をかぶせるという必然性はないと思う。</li> </ul>   |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事務局案の「住んでみたい、行ってみたいと思える」という表現をまくらにすることについてであるが、それは、2つ目の「健康で生き生きと安心して暮らせるまちづくり」にも関係する。</li> </ul>   |
| ○蔵田委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本的課題であるため、「住んでみたい、行ってみたいと思える」という表現は適切でない。まくら言葉は必要ないのではないかと。</li> </ul>  |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 多文化共生時代に向けて総合計画をつくっていくというのは、そのとおりだと思う。必ずしも基本的課題の箇所ではなく、どこかにそういった言葉があってもいいと思う。</li> <li>• それでは、基本的課題について審議を行いたい。これは大事なことであるため、今日決めなくてもいいかもしれない。</li> </ul>  |
| ○藤井副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本日決めるべきである。</li> </ul>   |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは本日決めることとする。</li> <li>• 1つ目は素案のとおり「人口減少時代の中、拠点性と求心力を備えたまちづくり」、2つ目は人口減少時代の中を、都市間競争の時代に変更、3つ目は「住んでみたい、行ってみたいと思える拠点性と求心力を備えたまちづくり」、4つ目は「住み続けたい、住んでよかったと思える拠点性と求心力を備えたまちづくり」、5つ目は「人口減少時代の中」を取り、「拠点性と求心力を備えたまちづくり」のみにする案である。</li> <li>• これら5つの案について投票を行いたい。</li> <li>• 投票の結果、5案が10人で最も多かった。</li> <li>• では、将来都市像の4つの案についての審議に移りたい。</li> </ul> |
| ○山口委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「にぎわい しあわせ あふれる躍動」の案については、もっとスマートにならないものかと思う。</li> <li>• また「あふれる」という表現はルーズなイメージ、あるいはもったいない世の中で「あふれる」という言葉はどうかという思いがある。</li> </ul>  |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 福山市では中心市街地にも人があふれてないため、そうありたいという思いから「あふれる」という表現を使ったと思われる。</li> </ul>   |
| ○藤井副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事務局に質問するが、局内の策定委員会では1案がいいだろうということになっているのか。</li> </ul>  |
| ○事務局   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• そのとおりである。</li> </ul>   |

|        |  |
|--------|--|
| ○藤井副会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そういうことであれば、この場では策定委員会で決定した1案についていかどうかをまず審議し、この案よりも他によいという意見があればそちらを審議するという方法が望ましい。</li> </ul>   |
| ○井上会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず、素案13ページの将来都市像について意見を伺いたい。</li> </ul>   |
| ○安川委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局ではどのような議論を経て素案13ページの将来都市像となったのか。</li> </ul>  |
| ○事務局   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10ページに記載しているとおり、社会展望、福山市の特性、市民アンケートを踏まえ基本的課題を抽出した。将来都市像を考えるに当たっては、基本的課題で記載しているように拠点性、求心力、健康、安心といったことを表すことができるような将来都市像として、4案に整理した。</li> <li>・ この4案について策定委員会で議論を行う中で、やはり拠点性と求心力というのは、にぎわいとか躍動、それから健康、安心というのはしあわせにつながるということとなり、最後には策定委員会でも多数決になった。こうして1案が選ばれることとなった。</li> <li>・ 拠点性や求心力を「にぎわい」という言葉に託し、「健康で生き生き安心・安全」という言葉を「しあわせ」という言葉に託し、そして「あふれる」という言葉は、そうした「にぎわい」と「しあわせ」、その両方が「あふれる」という意味で使用している。また、中核都市としての発展という思いを躍動都市という言葉に込めており、それから「ばらのまち福山」という言葉も、郷土のまちづくりの原点であるため、やはりこれまでどおり使いたいということで、第1案のとおりとなった。</li> </ul> |
| ○山口委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働のまちづくりという観点からいえば2案の方がよい。</li> </ul>   |
| ○安川委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働のまちづくりという観点を重視して考えるならば、「ともにつくる」という言葉がある2案がよいという意見である。</li> </ul>  |
| ○細木委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「協働」というのは基本的な課題ではない。</li> <li>・ また、「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市」というのは、非常に言葉がやわらかくて、流れもよい。一方、「ともにつくる」という表現が途中に入ると固くなると思う。</li> </ul>  |
| ○岡野委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細木委員が言われた意見と基本的には同じである。</li> <li>・ あくまでも将来都市像についてであり、手法を問題としているわけではないため、目標を掲げるべきである。「協働」というのは手法に過ぎない。このため、将来都市像という面から見ると、1案の方がよいと思う。</li> </ul>   |
| ○蔵田委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意味としては1案に賛成である。</li> <li>・ ただし、「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市」について、区切る箇所が原案のとおりでよいかどうかは分からない。</li> </ul>   |

|       |   |
|-------|---|
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「にぎわいあふれる躍動都市」と、「しあわせあふれる躍動都市」を一本化したというように私は理解している。</li> <li>・ 正確な日本語で言えば「にぎわいとしあわせのあふれる躍動都市」となるが、文章的におもしろくない。</li> </ul>  |
| ○門田委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意味合い、言い回しの点から1案がよいと思う。</li> </ul>  |
| ○井上会長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素案のとおりでいい方は挙手をお願いします。（12人が挙手）</li> <li>・ それでは、少し時間をオーバーしたが、本日は基本的課題と将来都市像について決定した。本日意見が出た基本構想の後半部分については、事務局にて整理いただき、次回原案の形にして答申にのぞみたい。</li> <li>・ 次回のスケジュールは、8月24日頃としたい。また、後日調整させていただく。</li> <li>・ 議論を行う中で基本計画に関わる話も出されるが、今作成中の基本計画について少し知っておきたいという委員はいるか。いる場合は、事務局から参考としてあらかじめ送ってもらうこととしたい。</li> </ul> <p>(了)</p> |

■出席者一覧

|     | 所属団体等             | 名前                 |
|-----|-------------------|--------------------|
| 委員  | 福山市教育委員会 委員長      | 伊藤 泰昭<br>いとう やすあき  |
| 委員  | 福山市女性連絡協議会 会長     | 井上 タカ子<br>いのうえ たかこ |
| 会長  | 福山大学 工学部教授        | 井上 矩之<br>いのうえ のりゆき |
| 委員  | 福山商工会議所 副会頭       | 占部 誠<br>うらべ まこと    |
| 委員  | 福山市農業委員会 会長       | 大元 活男<br>おおもと いくお  |
| 委員  | 福山市PTA連合会 事務局次長   | 蔵田 郁子<br>くらた いくこ   |
| 委員  | (社) 福山青年会議所 理事長   | 眞田 奈津基<br>まなだ なつき  |
| 委員  | (社) 福山市社会福祉協議会 会長 | 岡野 勝成<br>おかの かつなり  |
| 委員  | 公募委員              | 永久 洋子<br>ながひさ ひろこ  |
| 副会長 | 福山平成大学 福祉健康学部教授   | 藤井 悟<br>ふじい さとる    |
| 委員  | (社) 福山市医師会 会長     | 細木 宣男<br>ほそぎ のぶお   |
| 委員  | (社) 福山市観光協会 副会長   | 丸山 万里子<br>まるやま まりこ |
| 委員  | 福山市自治会連合会 会長      | 門田 つとむ<br>もんでん つとむ |
| 委員  | 福山市立女子短期大学 学長     | 安川 悦子<br>やすかわ えつこ  |
| 委員  | (財) 福山市体育協会 常任理事  | 山口 正司<br>やまぐち しょうじ |

(注) 五十音順